

こころ+いのち 東北まなび旅 「生きる力を育む東北」

教育プログラム「震災・防災・減災学習編」(例)



目的	東北を学ぶことにより「生きる力を育む」																				
学びの過程	<table><tr><th>つかむ</th><th colspan="3">さぐる</th><th>深める</th><th colspan="2">広げる</th></tr><tr><td>課題設定 「震災・減災・防災」について、自分たちが探究する内容を考える。</td><td colspan="3">課題追及 「インターネット」「図書館」「新聞」や「語り部の体験談」など、自分の「目」「耳」で確認した内容をまとめあげる。</td><td>東北での修学旅行 東北にて「実際に本物」に触れる</td><td colspan="2">東北修学旅行からの振り返り 東北で経験したことを地域に置き換え実際に「行動」や「発信」を行う</td></tr></table>							つかむ	さぐる			深める	広げる		課題設定 「震災・減災・防災」について、自分たちが探究する内容を考える。	課題追及 「インターネット」「図書館」「新聞」や「語り部の体験談」など、自分の「目」「耳」で確認した内容をまとめあげる。			東北での修学旅行 東北にて「実際に本物」に触れる	東北修学旅行からの振り返り 東北で経験したことを地域に置き換え実際に「行動」や「発信」を行う	
つかむ	さぐる			深める	広げる																
課題設定 「震災・減災・防災」について、自分たちが探究する内容を考える。	課題追及 「インターネット」「図書館」「新聞」や「語り部の体験談」など、自分の「目」「耳」で確認した内容をまとめあげる。			東北での修学旅行 東北にて「実際に本物」に触れる	東北修学旅行からの振り返り 東北で経験したことを地域に置き換え実際に「行動」や「発信」を行う																
学びのテーマ (単元数案)	第1単元（5） 【課題を見つけよう】	第2単元（10） 【東日本大震災を知ろう】 ※別紙2	第3単元（10） 【特定の地域について考えよう】	第4単元（10） 【講話を聴いて考えよう】 ※別紙4	第5単元（10） 【実際に東北で体験しよう】	第6単元（26） 【わが故郷を守ろう】	第6単元（4） 【振り返りとワークショップ】														
学習内容	1、最寄りの防災センターで体験する。（防災学習の計画）※別紙1 2、日本の自然環境の特色を学ぶ。（日本の国土や自然環境の特色を捉える）	1、インターネットや、新聞記事の資料を基に、東日本大震災について探究できるようにする。 2、津波や地震の大きさを知る。 3、災害と地域の人々の生活や産業の関係を理解する。	1、岩手・宮城・福島等の県より深く探究したい地域を選ぶ。※別紙3 2、選定した地域の、「震災前」「震災当時」「現在までの復興の様子」をインターネットや関連図書を通じ学ぶ。	1、特定した地域の【語り部の伝えたい話】を聞くことにより、自分の課題として捉えるようになる。 2、持続可能な【わが故郷】の環境について考えるようになる。（思考・判断・表現）	1、実際に東北に訪れ、遺構を訪れ、現地の方々の話を伺い、直接体験することにより、【生きる力を育む】ための深い学びを行う。 2、万が一災害が起きた場合に生きる行動を、過去の経験から学ぶ。	1、東北で探究したことを基に、これまで使っていた【学校】や【地域】の課題を整理する。 ・避難経路の見直し ・故郷を守るための、防災ポスターの制作 ・地域への発信	1、地域と自然災害との因果関係を視野にいれながら、探究したことをまとめていく。 2、地域で配信した結果を検証し、次年度（後輩）に向けまとめ、災害に対して力強く対応出来るようになる。														
東北がお手伝い出来る事	・「課題設定」のお手伝い	・東北観光推進機構（東北6県地図、東北まなび旅HP） ・「3.11伝承ロード機構」HP	・各県パンフレットやHP ・東北観光推進機構・各県の動画等	・語り部の動画 ・語り部派遣（各県等にて補助をしている場合もございます。※要確認）	・バス代等の助成制度（※各県等にて補助をしている場合もございます。※要確認）	・「まとめ」に向けて、「旅後」のお手伝い															

※参考資料：学校における海の学びのガイドブック
東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 編著

別紙 2：東日本大震災を知る



復興庁



復興庁

Reconstruction Agency



復興・創生 その先へ

復興に向けた取組

広報・報道

予算・決算

復興関連法令

お知らせ

復興に向けた取組

復興の現状と取組

被災自治体支援

福島復興と再生

復興交付金制度

写真でみる復興の現状

国際教育研究拠点

住宅再建・復興まちづくり

「新しい東北」

ボランティア・NPO・公益法人等との連携

復興推進会議・復興推進委員会

あなたのまちの復興情報

被災者支援

産業の復旧・復興に向けて

復興特別区域制度

男女共同参画

復興五輪

「復興の歩み」（岩手県・宮城県・福島県）



岩手県

Iwate Prefecture

観光復興

くらし・福祉

産業・雇用

まちづくり

教育・文化

環境情報

観光復興

「いわて復興の歩み」第4版（令和元年5月）を発行しました

復興の歩み

「いわて復興の歩み」第4版（令和元年5月）を発行しました

復興の歩み

「いわて復興の歩み」第4版（令和元年5月）を発行しました



宮城県

Miyagi Prefecture

くらし・福祉

観光・文化

産業・雇用

まちづくり

教育・文化

環境情報

復興・復興

「みやぎ・復興の歩み」について

復興の歩み

「みやぎ・復興の歩み」について

復興の歩み

「みやぎ・復興の歩み」について



福島県

Fukushima Prefecture

観光復興

くらし・福祉

産業・雇用

まちづくり

教育・文化

環境情報

復興・復興

「ふくしま復興の歩み」について

復興の歩み

「ふくしま復興の歩み」について

復興の歩み

「ふくしま復興の歩み」について

その他、マスコミ等による「東日本大震災10年特集」等

震災遺構の訪問



語り部の講話



復興への貢献



別紙4：講話を聴いて考えよう ※「東北まなび旅HP」より講話を閲覧できます。



丸文松島汽船 震災語り部クルーズについて（講演資料の抜粋）



ここ数年 東北には多くの震災遺構が出来まして、多くの語り部がああ時の教訓を伝えております。

当社 丸文松島汽船につきましては営業再開後 多くの方々にご乗船頂きましたが、殆どの方々から励ましの言葉と同時に「あの時ここはどうだったの？」と質問されました。

そんな時、ボランティア活動で来ていた早稲田大学の生徒の皆さんから「辛いかもしれませんが、この話は未来のために伝えるべきです」と言われ、それがきっかけで始まったのが **震災語り部クルーズ** になります。

松島復興語り部クルーズ

- 写真パネルなど使用し、当時の松島・塩釜の被害状況や体験したことなどを話すのですが、一番伝えたい事は 人と人の繋がり・交わりなど、今後の人生で一番大事であろうことをお話させていただきます。

東日本大震災

震災時、日本三景松島には約1,800人の観光客の方々がいましたが、湾内に点在する多くの島々のお陰で津波到達時間が他の地域よりも約50分程遅くなった為、避難する時間の猶予が出来ました。

立地条件に恵まれ全員無事に避難することが出来たと言っても過言ではないと思いますが、1978年の宮城県沖地震以降、松島町では町と観光施設が連携し避難訓練をやっていました。3月11日はその訓練の成果が発揮された日でもありました。

【前ページの補足】

＜2011年3月11日 地震発生から津波到達まで＞

地震発生 14:46

津波到達 16:13

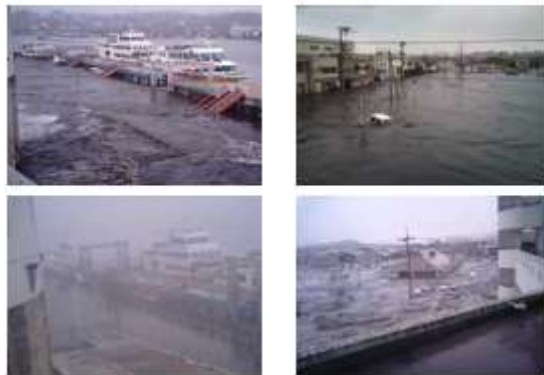
津波第一波 3.2m

第二波 3.8m

津波警報発令

- 松島町では地震発生から約20分後くらいに避難発令が出ました。
- 過去に何度か津波注意報等は発令されていたので、まさか！？という思いがった
- 目の前にある海の海面が下がり、引き潮になったので大津波を確信した。

大津波発生時の遊覧船乗り場と塩釜市内



2011年3月 東日本大震災時の日本三景松島



松島 中央広場 周辺



丸文松島汽船 横山純子様への講演（動画で視聴可能です）



東北で「学ぶ」ことは、 「生きる力」を育てること。

東北の「自然・環境」を学ぶことで、
将来的に持続可能な環境を考える大人になる

東北の「農林漁業・民泊」を体験することで、
『ふれあい』を通じ、主体的対話的資質を深める

東北の「歴史・文化」を学ぶことで
見識を広め、地域で受け継ぐ文化を学ぶ

東北で「震災・防災・減災」を学ぶことで、
震災・防災・減災に対し、深い学びを行う